

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	福島県	市町村名		大学名	
派遣日時	令和7年9月5日(金曜日) 13:30~16:00				
実施方法	派遣 / 遠隔				
派遣場所	オンラインによる研修会				
アドバイザー氏名	京都女子大学 准教授 滑川 恵理子 様				
相談者(受講者)	相談者 福島県教育庁義務教育課 受講者 市町村立小中学校管理職及び教員等 教育事務所及び市町村教育委員会指導主事等 国際交流協会及び地域日本語教室担当者等 福島県教育庁高校教育課指導主事 受講者 計35名				
相談内容等	「令和7年度外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣『日本語指導研修会』」として、Google Meet によるオンライン形式で開催した。日本語指導が必要な外国人児童生徒に携わる教員や支援者等を対象に、関係者への研修を通じて、在籍学級における支援や具体的な指導への理解を深め、指導の充実を図ることを目的とし、以下の時程で行った。 13:30~13:40: 開会行事 13:40~14:00: 行政説明「県内の日本語指導が必要な児童生徒等の状況について」 14:00~14:05: 講師紹介 14:05~15:45: 講演「事例を通して学ぶ『日本語指導初期支援』スタートガイド」 15:45~15:55: 質疑応答 15:55~16:00: 閉会				
派遣者からの指導助言内容	文部科学省外国人児童生徒等教育アドバイザーである滑川氏の講演では、特に「リライト教材」の作成と活用について、具体的な事例を通して紹介いただいた。 ◇ 主な指導助言内容 ○ リライト教材の有効性 教科書や学習内容を、日本語を母語としない子どもが理解しやすいように書き変える「リライト」の有益性について、子どもと一緒にリライト教材を作成していく方法が紹介された。子どもとのやり取りから、言葉を引き出し、理解可能な表現でリライトする工夫が動画と解説により分かりやすく提示された。 また、文化や言語が異なる子どもへの理解や実態に応じた指導法、教科指導以外に留意すべき点なども紹介いただいた。 ○ 支援体制の連携 学校と外部支援者との連携が子どもにとってプラスになるものの、その連携をうまくとるのが難しいという課題が共有された。				

(様式3)

	個々の事例に向き合い、判断に迷う際には気軽に話し合い、アドバイスをもらえるようなネットワークの必要性が提案された。
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<ul style="list-style-type: none">○ 研修会で有益性が確認されたリライト教材の活用について、多くの参加者から今後の指導に取り入れていきたいという感想があった。日常会話は流暢でも、教科学習の日本語で苦勞する児童生徒がいる現状を踏まえ、教科学習の日本語を向上させる指導方法について関心が集まった。日本語指導が必要な児童生徒の実態把握とともに、その先の進路を見据えた指導について研修及び情報提供していきたい。○ 指導者が直面する問題や判断に迷う場面に備え、相談や情報交換ができるようなネットワークづくりが求められる。今回の研修内のグループ協議では、近隣の地域で、教員や指導主事、日本語支援者等、異なる立場のメンバーで構成したことで、共通の児童生徒についての情報交換ができたり、新たな視点から支援の可能性を探ることができたりなど、多くの気づきにつながった。今回のようなオンライン研修を定期的で開催するとともに、内容を工夫し、国際交流協会などの外部支援者と学校・担任との連携をさらに強化していく機会にもしていきたい。○ 参加者からは、日本語指導の必要性が高まっているという認識が共有され、限られた支援回数・時間の中で、校内の支援体制を整えていく必要を再確認した。日本語指導や支援について研修を重ねたいという声があり、担当者等が参加しやすい体制づくりも考えていきたい。

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。